

ケアラー、約半数が「身体に不調」
市民団体が実態調査

親・配偶者・子どもなどを無償で介護・看病する人たち（ケアラー）の実態調査がこのほどまとまり、回答したケアラーの約半数が身体に不調を感じていることが分かった。調査をした市民団体は、すべての人に開かれた「包括的地域生活支援センター（仮称）」を人口 10 万人に 1 か所程度設置するよう提言している。

調査は介護者サポートネットワークセンター・アラジンとケアラー連盟が、厚生労働省の補助事業として 2010 年 8 月から 5 地区（北海道栗山町、東京都杉並区、新潟県南魚沼市、静岡市葵区、京都市山科区）で実施。ケアラーの有無に関係なくそれぞれ 4,000 世帯に調査票を配布した。

回答したケアラーは 2,075 人で、その 3 割が男性。年齢層は 40 歳未満から 80 歳代までと幅広く、ケアする相手は 10 歳未満もいれば 90 歳以上もいる。

ケアラーからの回答によると、身体の不調を感じている人は 49%。そのうち受診していない人は 2 割に上る。心に不調を感じる人も 27%いるが、受診していない人は 7 割に上る。

介護の負担は「多少負担に思う」、「世間並み」が

各 29%で、「全く負担ではない」は 9%。「非常に大きな負担」、「かなりの負担」の合計は 23%だった。

また「信頼して相談できる人や窓口がない」とした人、「ケアにより孤立していると感じる」とした人はそれぞれ 2 割に上った。

ケアラーが望む支援を尋ねたところ、「とてもほしい」、「まあまあほしい」の合計が最も多かったのは、自分が入院しなければならない場合など「緊急時に要介護者が利用できるサービス」（85%）だった。

反対に「あまりほしくない」、「全くほしくない」の合計が最も多かったのは、「家族やケアラー同士の自助グループ」（45%）。「ケアラーが集まり、気楽に話せる場所」（43%）がそれに続いた。

報告書は、ケアラー支援専門員 1 人を含む 10 人程度の多職種専門チームで構成する「包括的地域生活支援センター（仮称）」を、人口 10 万人に 1 か所程度設置するよう提言。それとは別に、ケアラーからの相談に応じる「ケアラー支援センター（仮称）」を、人口 3 万人に 1 か所程度設けるよう求めた。

（福祉新聞・2536 号 2011 年 7 月 18 日）

「**お知らせ**」

第 8 回日本医療リンパドレナージ協会学術大会

日 時：2011 年 10 月 8 日（土）

会 場：東京国際交流館「プラザ平成」

東京臨海新交通臨海線 ゆりかもめ、「船の科学館駅」下車徒歩 3 分
（東京都江東区青海 2-2-1）

テーマ：リンパ浮腫の現状と展望—原発性と続発性

プログラム：基調講演，特別講演，シンポジウム
「リンパ浮腫を取り巻く環境—さまざまな立場から」など

参加費：会員 3,000 円，一般 4,000 円（事前登録にてお申し込みください。）

主 催：特定非営利活動法人日本医療リンパドレナージ協会

〒231-0033 横浜市中区長者町 5-85

明治安田生命ラジオ日本ビル 4 階

Tel 045-325-9891 Fax 045-325-9892

<http://www.mlaj.jp/>